



湯河原ロータリークラブ WEEKLY REPORT



2020年7月10日(金) 天気：くもり
例会 第2806回 合唱：奉仕の理想

ロータリーは機会の扉を開く

会長 山本明峰
幹事 佐藤友彦

事務所：神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会内
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716
例会場：ニューウェルシティ湯河原 静岡県熱海市泉 107
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401
例会日：毎週金曜日 12:30～13:30

会長挨拶

次回・次回の例会はガバナー補佐、そしてガバナーの公式訪問となります。私は過去3度(幹事2、会長1)面談の経験がありますが、無事訪問日を了えると決まって「もう年度も大方終わったようなものだ」と先輩方に声をかけられたものです。それだけ重要な行事ということなのでしょう。手続要覧には公式訪問について、ガバナー自身が以下のような目的をもって訪問するものであると記されております。・ロータリーの重要な問題に焦点を当て関心を持たせる。・弱体あるいは問題のあるクラブに特別な関心を払う。・ロータリアンの意欲をかきたて奉仕活動に参加させる。・顕著な貢献をした地区内のロータリアンを、ガバナー自ら表彰する。以上です。とにかくロータリーとは何かを学ぶ格好の機会です。例年ですと、なるべく全員が出席するようにと声掛けがされたのですが、今年は時節柄、体調の優れない方、微熱があったり咳が出るような方はなるべく無理をしないようにとのことです。

幹事報告

ガバナーより

1. 上期地区資金・地区大会分担金納入のお願い
地区資金の内訳(会員一人当りの額)
本会計 上半期分 4,500円(年額 9,000円)
米山記念館維持費を含む
事業会計 上半期分 1,500円(年額 3,000円)
新世代助成費今期は実施せず

出席報告	ゲスト 0名 ビジター 0名	会員 25名
	欠席 5名(免除者 0名)	前回の修正出席率 92.00%
	出席率 87.50%	前々回の修正出席率 87.50%

事前メイクアップ 0名

地区大会分担金 8,000円
ご送金は、7月中にお願いします。

米山記念奨学会より

1. 2018年度上期普通寄付金のお礼
さて、2020-2021年度上期普通寄付金のご送金をお願いする時期となりました。普通寄付金上期分は毎年7月1日の人数でご納入いただき、当会事業の安定財源となるご寄付です。毎年金額が変動する特別寄付金だけでは、留学生への奨学金給付という公益事業の安定的・継続的な財源とはなりません。当会では財団法人設立当初から、全ロータリークラブに安定財源としての普通寄付金をお願いしてきました。多地区合同活動として日本の全34地区が参加しているこの事業へのご理解を深めていただき、奉仕の実践として、普通寄付金のご送金を是非お願い申し上げます。

箱根ロータリークラブより

1. 2021年1月19日(火)に開催予定されております「第9グループIM・合同例会」開催準備に伴い各クラブのIM実行委員のお名前をお知らせいたしますようお願い申し上げます。

連絡事項

1. 次週はガバナー補佐訪問です。



会員誕生日 石田浩二君 (7 / 13)
 入会記念日 櫻井武志君 (3年・H29.7.7)
 入会記念日 安江仁孝君 (1年・R1.7.5)
 青木義美君
 今期国際会長ホルガークナーク氏の出身は北ドイツのラッテブルクという町で、ハンブルクのキールのそばです。この町はオリンピックでドイツのボートチームを何回も優勝させてボートで有名な街です。10年くらい前のレースで日本チームも優勝したことある縁起の良い街ですがこれが最後でその後勝てません

卓話：安江仁孝君

皆さま、改めましてはじめまして。安江仁孝(やすえ・まさたか)と申します。入会2年目ですが、コロナ禍もありまして、今回が初の卓話となります。

・(最初です)自己紹介

昭和56年(1981年)7月14日、湯河原駅前の小沢医院(図書館前)にて生まれ、今年39歳となります。祖父の明孝(旧名:孝)は長らく湯河原南ロータリークラブ・湯河原ロータリークラブでお世話になり、おかげさまで今も健在(92歳)です。安江家は全員が音楽好きで「和音会」「エコ・マーレ」と冠した音楽会を開催し、湯河原にクラシック文化の種を蒔く活動を行っています。

話を私のことに戻しますと、湯河原幼稚園、東台福浦小学校を経て、中学より全寮制の私立暁星国際学園に進学しました。そのため湯河原生まれの同世代にはあまり認識されていないのですが、そんな私にとっても湯河原は故郷にしてただひとつのホームタウンです。

職業は平成12年から住職(宗教法人神明院)を務めています。趣味は歌、猫(現在5頭います)、横浜DeNAベイスターズの応援、鉄道です。特に鉄道は子供の頃から興味があり、社会人学生として通った大学(人間科学部)でも研究テーマとしました。令和2年(2020年)に博士学位を取得し、大学の研究員としての活動を続けています。

・人間科学とは?

今回は、私を構成するキーワードのひとつ「人間科学」についてお話します。

人間科学と聞いて皆さまは何を思い浮かべるでしょうか。その実態をご存じない方にとっては得体の知れないものとも映るかもしれません。その定義について、学部のサイトには書いてあるもののやや難解で、他に書籍などを確認しても必ずしも定まっていません。そのため私見ですが、修了生として端的な説明を試みます。ズバリ「人間科学とは『人間化』学である」。

そもそも、あらゆる学問領域(工学、理学、医学、心理学...)は、それぞれめざましい進歩を遂げつつ、いわば「人間以上」の存在や視点を持つ宿命にあります。

それは一見すると人類の幸せに貢献しているのですが、ではふと「ひとりの人間」という視点に立つてみるとどうでしょうか。人間科学の重要な視座である人間性の尊重、つまり人間目線を軸とする(人間「化」と、単一の学問領域の視点では捉えきれなかった問題が見えてくることもあるのです。確かに学問領域としての歴史は浅いのですが、人間目線の、すなわち真に人間のためになる幸福を考える上では重要なスタンスであると思います。

今や人間科学部、およびそれに近い学部は国内に多数存在し、まだまだ社会的認知度は途上ですが、卒業生は続々と社会に羽ばたいています。また話を私に振り向けますと、私はこの人間科学部で、元々興味があった鉄道駅の「サイン計画」に着目した研究テーマに取り組み、学位を取得することができました。サイン計画というのは、要は「案内看板の設置プラン」で...、このお話はマニアックになりますので、またの機会にいたします。

・人間科学部生の傾向と最策

ロータリークラブの皆さまは、組織を司る立場にいらっしゃる方も多いと認識しています。最後に、人間科学部のゼミ運営にも長年携わった経験から、人間科学部生の特色について簡単にお話ししたいと思います。

1. ゼネラリストの視点を持っている

人間科学部生は多様な学問領域の科目を履修しているので、総合的な感覚を自然に育てています。それは取りも直さず、常に初学者、常に一から学ぶということを求められますので、とりあえずやってみて、ということへの対応力は(出来映えは別としても)高いと思われまます。

2. データにちょっとだけ強い

人の数だけ視座がある人間科学ですが、唯一共通する素養は統計学です。データというのは怖いもので、取得の仕方、解釈や分析の仕方によって社会活動に大きな影響を与えるということはコロナ禍でも示された通りです。さすがにコロナ対応で用いられた感染数理モデルの解釈となるとすぐには説明できませんが、データを適切に読み解く、疑うといった能力は、人間科学部生の多くが備えていると思われまます。

皆さまにおかれましては、人事採用において「人間科学部」という文言を履歴書に見つけた場合、なんかよくわからない学部だな...よし不採用!と一蹴することは何卒堪えていただき、先に述べたような特色を頭の片隅に置きつつ、ご判断いただければと思います。

・人間科学の今後、話者の今後

今後の人間科学は、例えば「AI(人工知能)」と人間の共存、あるいはポストコロナ時代における人間の真の幸福の探究)といった関心の高いテーマへの探究も続けられることでしょう。私も先述の研究テーマに引き続き取り組みつつ、得てきた学びをロータリーでの活動に少しでも生かせればと考えています。

今後ともよろしく願いいたします。